



京機カフェ < 第5回京機ビジネス倶楽部 > の報告

関西支部

第5回ビジネス倶楽部を平成26年6月27日に開催しました。

今回は変則的に開会の前に伊勢神宮参りを行いました。集合は近鉄宇治山田駅10時20分解散は同駅19時というハードなスケジュールでした。総勢で23名（うち名誉教授3名 会員の関係者5名）でした。伊勢神宮参り（途中昼食）の後、1993年京大機械修士卒の松田浩明氏が経営しておられる松田精工並



びに松田工業にて講演会、工場見学が行われました。そのあと駅前の料亭で懇親会が行われました。当日の様子を簡単に報告します。



神宮参りはまず「せんぐう館」見学から始まり、外宮参拝後おかげ横丁で昼食をしてその後内宮を参拝しました。内宮は松田浩明氏が伊勢神宮御師(おんし)の家系ということで特別な計らいで御垣内参拝をさせて頂きました。



松田精工・松田工業の工場は宮川に沿った明るい工場でした。松田氏がまず創業者松田健寿氏（昭和3年京大機械卒）の生い立ちやエピソードを面白おかしく紹介されました。創業者にありがちな皆がしてないことを好んで行うことやさいごまでやり抜くバイタリティーを感じました。会社は機械加工、機械部品製作が主体であり創業者（祖父健寿氏）時代には家庭用ミシンが中心であったものを、2代目（父）が工業用ミシン、モーター、エアコン業界へ、3代目（本人）が産業用ロボット、鉄道、乗用車業界にと変遷を重ね、発展しているとの事です。工場見学は2班に分かれ数百台の工作機械が並ぶ中、多品種少ロットの生産を行う松田工業と大量生産を行っている松田精工を見学しました。伊勢市内にはこれほど規模の工場はほとんどないとの事です。



駅前の割烹大喜で懇親会がおこなわれ、伊勢神宮や工場見学の感想をはじめ、初めてビジネス倶楽部に参加された方の自己紹介などで大いに盛り上がりました。

H 2 6 年度九州支部春の行事のご報告

～ 韓国釜山見学ツアー～

(前号の つづき)

九州支部長 千々木亨 (1979 年卒)

懇親会

懇親会は釜山最大の海鮮市場のチャガルチ市場にある、海鮮バイキングレストラン「オアゼ」で行いました。

開宴に先立ち、旅客船沈没事故で亡くなった韓国の若者に皆で黙とうを捧げました。昼間の見学に参加出来なかった韓国海洋大学の崔在星さんもご参加頂きました。

皆で遅くまで韓国談義で盛り上がりました。



・ オプショナルツアー (5/11)

翌日は、釜山郊外ツアーと慶州ツアーの2グループに分かれ、韓国の自然と歴史文化を堪能しました。

1) 釜山郊外ツアー

(通度寺、海雲台見学)

まず最初に通度寺を訪れました。通度寺は1400年前にお釈迦様の遺骨(仏舎利)を祭って建立された寺で韓国の3大名刹のひとつです。バスガイドさんに加え、鄭先生が学術的な見地から細かくご説明下さり、韓国文化への理解を更に深めることが



出来ました。多くの信者さんが朝早くからお参りになっておられ一心に祈りを捧げておられました。観光客は少なく観光名所というより、祈りの聖地であるという印象を強く受けました。韓国の仏教徒は日本と異なり、体を投げ出し、額を床や地面にすりつけながら丁寧に祈ります。信者さんと共に仏舎利のまわりの石畳を一周してお祈りしていた時、目の前の若者たちが何度も額を石畳にすりつけて祈る姿を見て、千年以上もの時の流れの中で変わることのない奥の深い精神世界を垣間見たような気がしました。



宝物殿では、京機会の井手教授が世界最大級のスキャナーで高解像度電子画像化されたという八相図を見学しました。緻密な構成と繊細な表現に圧倒されました。まさに国の重要文化財に値する傑作でした。



(つづく)

蒸気タービンの歴史 (その 15)

The History of Steam Turbine

藤川 卓爾 (S42)

転載元：火力原子力発電技術協会，
「火力原子力発電」，Vol.61，No.8，pp.33-45，(2010-8)

7．日本における戦後の蒸気タービンの歩み

7.2 船舶用 (つづき)

第2次世界大戦後も船舶の主機は蒸気タービンが主流を占めていた。各メーカーによって数多くの船用タービンが製作された。敗戦直後の商船用主機タービンの蒸気条件は，1.57MPa，280 のレベルから出発して，1.77MPa × 350 ，2.94MPa × 400 ，3.92MPa × 450 ，5.88MPa × 480 級と段階的に順次向上していき，1964年(昭和39年)には5.88MPa × 510 に到達した(25)。7.1節の発電用に比べると圧力，温度とも低い。船舶の主機として，実績がより重視されること，ボイラ，配管の軽量化のためフランジレーティング900psig(6.20MPa)以内とすること，ボイラメンテナンス容易化のため特殊溶接技術不要の過熱器材質(2.25Cr-Mo材)適用などがその理由であるが，市場ニーズとして経済性より信頼性が優先されていたことが第一である。

この様相は1970年代の2回にわたる石油危機によって一変し，蒸気タービンは燃費効率のよいディーゼル機関によって主機の座を追われることになった。図31

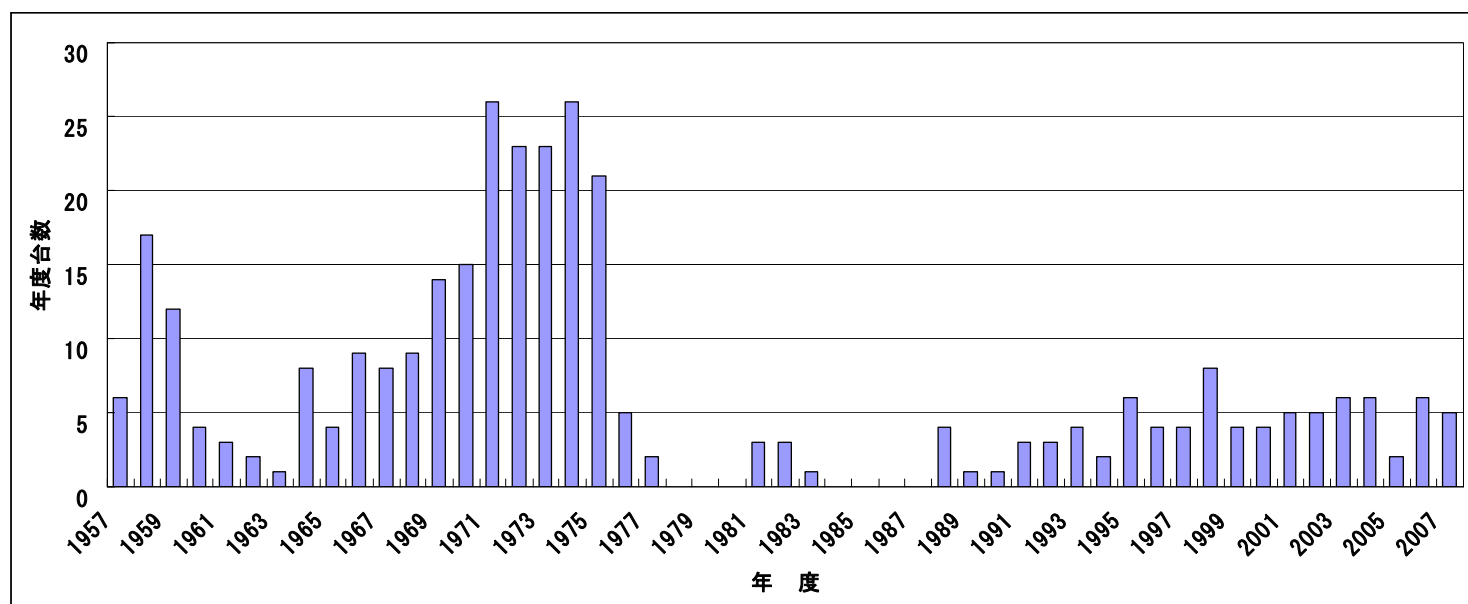


図31 三菱長崎造船所船用主機タービン生産実績

[提供] 三菱重工業(株)



写真22 MS型船用主機タービン

[提供] 三菱重工業(株)

に1957年以降の三菱長崎造船所の船用主機タービンの生産実績を示す。1970年代の前半の石油危機前には年産20台以上の船用主機タービンを生産していたが、石油危機後の1980年代には1台も生産しない年度が何年も続いた。

この時代に船用タービンのニーズとして、LNG船(液化天然ガス運搬船)が登場した。LNG船では航海中に発生するボイルオフガス(カーゴタンク内のLNGが気化したもの)をボイラで燃焼し蒸気タービンで推進する。図31に示すように、その後LNG船用として船用主機タービンの生産が持続している。現在の40,000PS(約29,400kW)級船用主機タービンの外観を写真22、写真23に示す。



写真23 UA型船用主機タービン

[提供] 川崎重工業(株)

最近では、重油と天然ガスの双方を燃料として使用する2元燃料ディーゼル機関(DFD機関)やLNG再液化装置の開発により、ディーゼル機関をLNG船の主機あるいは電気推進用発電機の駆動に用いるものが登場し、蒸気タービンの座を脅かし始めている。これらの動きに対抗して、蒸気条件をさらに向上した再熱プラントが開発されている。再熱プラントはかつて1970年代に川崎重工業(株)で9.80MPa、520級のもので製作され⁽²¹⁾、1972年には石川島播磨重工業(株)で50,000PS(約36,800kW)のもので製作された⁽¹⁵⁾が、最新の再熱プラントでは蒸気条件を12.0MPa、565まで向上している⁽²⁶⁾。

1897年のTurbinia号以来、1世紀以上にわたって船舶の推進力を担ってきた蒸気タービンがその座を末永く保ち続けると考えられる場合は原子力艦船の主機である。米国海軍のニミッツ(Nimitz)級航空母艦には2基のPWR原子炉と4軸260,000HP(約190MW)の蒸気タービンが搭載されている⁽²⁷⁾。

少し手前味噌ですが、この稿を書いたときに、少なくとも戦前の日本の蒸気タービンの歴史は長崎造船所の歴史だと実感しました。戦後、資源のない日本は米国ではなく欧州を手本にするべきだと考えた技術屋が社長の三菱造船は戦前に引き続いてスイスのエッシャー・ウイスと技術提携し、今後の電源建設は世銀借款だから米国技術と提携するべきだと考えた事務屋が社長の新三菱重工業に差をつけられましたが、蒸気タービンの設計を見るとやはりヨーロッパ人は合理的だと思うことが多いです。いずれにしても、その長崎造船所で働くことが出来たことは幸せだったと思います。

<参考文献>

- 13) 吉田 孝太郎:我が国における蒸気タービンの発達, 日本機械学会誌 機械学会創立40周年記念号, 第41巻, 第253号, pp.440-452.(1938-4)
- 14) 吉田 敏明:発電用ボイラ発達の歴史(3), 火力原子力発電, Vol.61, No.3, pp.20-33.(2010-3)
- 15) ターボ機械協会編:蒸気タービン, 日本工業出版(株), p.18-20.(1990-4)
- 16) 東京電力(株)火力部:東京電力火力技術三十年の歩み, p.29 . p.40 . 東京電力(株)火力部, (1984-3)
- 17) 小松 吉次郎:横濱電気株式会社沿革史, p.21.(1922-6)
- 18) 「三菱長船電気ものがたり」編集室:三菱長船電気ものがたり, 三菱重工業(株)長崎造船所, p.32.(1977-9)
- 19) 九州電力(株):九州地方電気事業史, 九州電力(株), p.142 . p.143 . p.145 . p.146.(2007-10)
- 20) 日本船用機関学会 日本船用機関史編集委員会:日本の船用蒸気タービン発達史(1945年まで), 日本船用機関学会誌, 第28巻, 第1号, pp.4-18.(1993-1)
- 21) 渋谷文庫調査委員会:「渋谷文庫」-旧海軍技術資料-と我が国造機技術の発達, 渋谷文庫調査委員会, p.79 . pp.217-229.(2001-7)

- 22) 三菱造船(株): 創業百年の長崎造船所, 三菱造船(株), p.171 .(1957-10)
- 23) 牧野 茂 / 古賀 繁一 監修, 『戦艦武蔵建造記録』刊行委員会 編著: 「戦艦武蔵建造記録」, アテネ書房, p.92 .(1994-10)
- 24) 火力原子力発電技術協会: 創立 50 周年記念 火力原子力発電 50 年の歩み, 火力原子力発電技術協会, pp.119-151 .(2000-10)
- 25) 堀家 弘: 日本船用機関史編集委員会報告 (1)- 商船用及び艦艇用主蒸気タービンの技術に関する進歩の年表 (激動の 20 年: 1945 ~ 1966 年) 主たるタービン製造会社別: 日本マリンエンジニアリング学会誌, 第 43 巻, 第 5 号, pp.94-111 .(2008-9)
- 26) 戸濶 美彦: リヒートタービンプラントを採用した高効率次世代 LNG 船推進システム, 第 78 回(平成 20 年)マリンエンジニアリング学術講演会 講演論文集, 日本マリンエンジニアリング学会, pp.217-220 .(2008-9)
- 27) Wikipedia: Nimitz class aircraft carrier

(おわり)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

**また、原稿が切れてきました。京機短信存続が問題になるレベルです。
是非とも投稿、お願い致します。 気楽に !!**

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

第4回大阪あそ歩「大阪梅田から淀川を越えて十三へ」

先日、平成26年6月21日に京機カフェ大阪あそ歩を開催しました。真新しいビル群を抜け、旧北野中学（現、北野高校）跡から「新北野」界隈へ。途中サッパボイラー様にて蒸気機関車「義経号」のボイラーの修繕設備を見学、その後、大阪～神戸間の鉄道開通時に架設された鉄桁を移設・転用した浜中津橋などを巡りました。梅雨にも関わらず天気に恵まれ、がんこ本店にて15名の参加者により親睦を深め解散となりました。



京都・祇園ツアー

(その5)

1972 卒 岡本雅昭

『高瀬川二条苑』での懇親会：

(2014.4.26)

高瀬川二条苑は、1611年（慶長16年）、高瀬川開削者である豪商角倉了以が、その源流に建設した別邸跡にある日本庭園です。高瀬川源流庭苑とも呼ばれます。庭園の一角には、江戸時代初期に小堀遠州により作られた茶庭が現存しています。

明治になって、明治の元勳、山縣有朋が当地に『第二無鄰菴』と称される別邸を建設。この時に庭園は無鄰菴を作庭した小川治兵衛により改修され、現在に至っています。



高瀬川の源流：東の鴨川からの取水です。



高瀬川一之船入：高瀬川は、角倉了以によって開発された全長11km、幅8mの水路。船入とは、荷物の積み下ろしや船の方向転換を行った場所で、現存するのは国の史跡に指定されているこの場所のみ。

『高瀬川二条苑』での懇親会風景：

京機会・世話役の69年卒の並木宏徳さんと先輩諸氏との歓談風景





チロルハットに真っ赤なポケット・チーフ姿の68年卒の阪上修一さんと72年卒の池田博一さん。



懇親会全体の風景

第7話 カラシニコフ記念イシェフスク州立工科大学

ホテルに大学の車の迎えが来て大学の会議場に向かいました。道路の横の敷地には、縦の木の他に、白樺やリンゴの木が植えられており、塀の無い公園のようなところが大半です。そんなところをの道をスッと回ると大学になりました。塀も門もありません。建物に入ろうとすると、改札のようなところを通らねばならず、門衛が居ます。私が行ったほとんどすべての建物の入り口には門衛が居て、入ってくる人間に変なのが居ないかチェックをしています。日本ではありえないことですね。治安がそれ程良くないせいなのでしょう。人件費が安く、また、人余りのせいなのでしょう。



国際会議の初日の昼休み、主要な外国からの参加者が大学の学長室に呼ばれました。話はこの大学と外国の諸機関との国際交流を深めたい、条件は相手側の学生をお互いに本人負担経費無しで受け入れるというものでした。そして、OKならこの書類にサインしてくれと、英語とロシア語で書かれた文書がだしぬけに配られてきました。しかし、何の前触れもなく、いきなり呼ばれて、契約書にサインなんてできるか、と言って拒否をしましたが、前もってパフォーマンスの約束がしてあったのか、カザフスタンの偉いさんのみみんなの前でサインをしました。そして、これらの私どもに対する話は全てロシア語でされ、英語の通訳と通じて我々が理解している状況でした。まあ、言葉の点にせよ、物事の進め方にせ

よ、国際化と言っても、ロシアはどうすれば国際化を進めて行くことができるかについて、まだまだ現状や方法論についての認識がないようです。もっとも、日本の国際化がどこかに利用されているのではなく、また損得勘定ではなく、お互いに敬意をもって、真の意味での共同作業ができて行くようになされているかについては？？？の所もありますので、あまり偉そうなことは言えません。

「私はもう7年以上も前に定年で大学を辞めているので学生の交流とかについては力になれないよ。」と言うと、今私が籍を置いている公益財団法人応用科学研究所についてあれこれと聞いてきました。冶金、熱処理関係の仕事に私がかかわっていることが分ると「うちの大学にもその専門家がいるので、一度会って喋るように」と言われ、翌日、通訳の綺麗な女性が迎えに来ました。

案内された冶金の専門家の教授は結構の年輩で、結構の大物らしく、ものすごくきれいな部屋に居ました。最初は、学長から言われたので仕方なく、日本のどこの馬の骨ともわからん奴に俺の時間を割いて合わねばならないんだという態度で、ロシア語で「あんたは私に何が訊きたいんだ。」と問いかけてきました。「今、国際競争の中で日本の機械もその製造コストを下げるために海外材をも含み安い材料を使わねばならないような圧力が経営のトップからかけられている。しかし安価材は、そのサンプルを調べてOKの品質であっても納入される材質は安定せず、ひどい品質のものもあって困っている。先生に、何か簡単に納入された現物の鉄鋼の品質の可否を判定できるような良いアイデアが、あるいはそれにつながるような情報がお聞きできないか、と言う意図をもってお会いしています。」とか、結構、あけすけに話をしていると（偉そうに書いていますが、全部通訳を通じての話です。この老先生はあまり英語も解さないようでした。）そのうちにだんだん打ち解けてきて、老先生、ケタケタケタと笑って「そりゃ、あんさん、商売上手な奴に騙されているんだよー」とのたまいました。ロシアの状況を聞くと、重要な対象の機械に使う材料については、納入後かなりの時間をかけて詳細なチェックをして、カスの材料を使わないようにしているそうです。どの程度の材料をペケにするんですかと尋ねると、約30%と言う答えが返ってきました。これがロシア材ならびに中国材の品質安定性の実力だとすると、日本の会社も機械用材料について、もう少し真剣に色々なことを考えねばならないかもしれませんね。

この老先生、実はヘビーデューティーのバネの専門家なのですが、この種のバネにはやはり結構事故があるようです。これの対策技術として開発したものらしいのですが、自分のこれからの残りの人生はこの技術に賭けるのだ、と言って、新しいコーティング技術のさわりを言ってくれました。厚さ2mmほども作れる溶

射イメージのコーティングらしいのですが、高硬度で耐摩耗性が非常に高く、なお且つ、かなり大きな変形にも対応できる韌性をもっているそうです。カーボンコンテンツは約2%とのことでした。秘密保持契約をしたらもっとちゃんとしたことを教えてあげるが今日は駄目だ、と言ってわずかしか教えてくれませんでした。後で、大学の国際交流の責任者から送られてきた資料の中に、

Innovative Projects:

- * Arrangement of mass production of heavy-duty springs with the use of homogeneous nanosubstructures (1100 million rubles, 2 patents)

- * Arrangement of hi-tech production of precision rolled products with nanodispersed substructure (plan - 360 million rubles, 5 patents)

と言うのを見つけましたが、この homogeneous nanosubstructure というのが、老先生の言っていたことと関係がありそうです。

冶金の老先生との面白いランデブーを終わって研究室に戻ってくると、ウオッカ、ブランディー、ビールと手製のおつまみが机の上に広げられており、研究室の連中と気さくな談笑です。形ばらない、いい雰囲気ですねー。これは万国共通の大学の良いところですよ。近頃の日本の大学では、管理・管理・管理でこのようなことがし難くなってきているのを感じていますが、ここに来て、日本の大学はどのような方向に変身しようとしているのか、心配が首をもたげてきました。



(つづく)

「ルビ（ R u b y ） = 振り仮名用の活字」

[焦び]、[真し]、[ひ尿器]と書かずに、[焦眉]、[真摯]、[泌尿器]と書け！
 [激高]、[障害]、[障がい]と変な字を充てないで、[激昂]、[障碍]と本来の漢字を使い、別の漢字に置き換える位なら平易な用語で書き直せ！

読めない人のためにはルビ（ R u b y ） = ふり仮名用の活字を振ればいい！
 こんなことを世間の片隅で喚いていたが、最近は徐々にルビが振られるようになってきて喜ばしい限りである。

下記は2007.10.27の朝日新聞から拾ったものであるが、未だぎこちないところがある。基準を明確にして、読者の言語脳を活発にして戴きたいと思っている。

老舗	しにせ	船場吉兆の場合は、し偽
薫製	- - -	ルビがない理由が分からない。
		尚、どうセルビを振るのなら薫製を使って欲しい
恹恹奇奇		かいかいきき
		[恹恹]が大きく広く包みいれるさまは広辞苑と大辞泉で分かったが、恹恹奇奇となると、ことわざ辞典を含め発見出来ず。前後から推すにも、脈絡を忘れた。
長谷川侑香氏	- - - - -	伊豫や晃嗣よりわかり辛いこの人名にルビがなく、どう読んでいいか分からない。
洛外名所有楽図屏風		らくがいめいしょゆうらくずびょうぶ
棋書画図襖		きしょがず -
腑に落ちた		ふ - - - -
判ってくれない		わか - - - - -

生甲斐	いきがい	盗られ	と - -
聚楽第	じゅらくだい	被曝	ひばく
梗塞	こうそく	唐獅子図	からじしず
愛嬌	あいきょう	徘徊	はいかい
花鳥図襖	- - - -	笹団子	ささ - - -
伊豫	いよ	晃嗣	あきつぐ

1 . 避けられない人口減少社会、国土政策の転換が不可欠

2014.5.29 nikkei BNet 竹中平蔵

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140527/399493/?ST=business&P=1>
 私は以前、安倍晋三首相に次のように申し上げたことがある。「『3本の矢』は正しい政策です。しかし、3本の矢というのはあくまでも政策手段に過ぎません。大切なことは、どういう日本を目指すかということです。政策手段とは別に、ビジョンを示す必要があります」

2 . 2040年に「消滅可能性都市」が523の衝撃

2014.5.22 nikkei BNet 田原総一郎

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140522/398630/?ST=business&P=1>
 前々回の本コラムで、省庁幹部人事を一元管理する「内閣人事局」による改革、つまり霞が関改革に期待していると書いた。新聞では、警察官僚出身の官房副長官が初代局長に就任するといった報道があるが、それは官僚サイドが流す情報に基づいたものだ、と私は批判した。どうやら政府は初代局長に自民党衆院議員の加藤勝信官房副長官を充てる方針を固めたようだ。国会議員の加藤氏を起用することで、政治主導で霞が関改革を進めようという狙いである。あらためて霞が関改革に期待したい。

3 . 「消滅する市町村523」

2014.05.28 現代ビジネス 山崎元

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/39383>

増田寛也論考が示す衝撃の人口減少予測。名指しされた自治体はどう対処すべきか？

4 . 景気回復に加えて働き手の人口がどんどん減少

足音が聞こえ始めた「人手不足時代」の近未来予想

2014.6.3 DIAMOND Online 真壁昭夫

<http://diamond.jp/articles/-/53955>

5 . 日本経済に明日はあるのか 改めて考える人口問題（2）

ついに表面化した潜在的労働力不足

2014.5.28 日経ビジネスOnline 小峰隆夫

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20140519/264925/?P=1>

前回、人口についてもう一度書いてみようと考えた一つの理由は、人口構造の変化は「確かな未来」における「確かな課題」であるにもかかわらず、それが解

決に向かっているところか、むしろ深刻化しているように見えることだ、と書いた。今回はこの「人口問題の深刻化」という点について述べてみたい。

6. さらば 使い捨て経営

2014.5.26 日経ビジネスOnline

まやかしの正社員化では、「採用氷河期」は生き抜けない
小売り・外食の「デフレモデル」はもう限界

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20140523/265297/?P=1>

深刻な人手不足を背景に、非正規社員に依存する経営を見直す企業が相次いでいる。安い賃金で、簡単に解雇できる労働者を雇い、「使い捨て」にするビジネスモデルはもはや限界に来ている。日本の雇用のあるべき姿とは何か。労働経済が専門で雇用問題に詳しい日本総合研究所の山田久調査部長に聞いた。

7. 外食の人手不足が暗示する、日本の将来

「すき家」「和民」問題の向こうに見えるもの

草食投資隊をフォローせよ

2014.05.28 東洋経済Online

<http://toyokeizai.net/articles/-/38713>

牛丼チェーン店という、24時間開いているのが当たり前だったのですが、最近、臨時休業するお店が増えています。アルバイトが集まらないから、というのがその理由。ん？ちょっと前までリストラ、就職難だったのに、いつのまにか人手不足になっているようです。今回は草食投資隊の3人に、雇用の最前線について話し合ってみました。早朝のファミレスで・・・。

8. 経営危機の打開策に向けた成長分野への労働移動調査報告書

H26.3 九州経済産業局

http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E003911.pdf

今回の調査は、新事業分野へ進出した企業における労働力確保方法等を調査・整理し、新事業展開を図る企業の労働力確保等に資すると共に、新事業分野進出中断事例の収集も含め、調査過程で得られた支援ニーズを整理し、今後の施策検討に反映していくことを目的に実施しました。

9. 九州における最近の銀行券受払動向の特徴とその背景

2014.5.15 日本銀行福岡支店

<http://www3.boj.or.jp/fukuoka/topics/topics2605.pdf>

銀行券は日々の様々な取引の決済に使用されることから、その受払動向は、経済活動や資金決済手段の変化等と密接に関連している。本稿では、九州・沖縄および福岡支店における近年の銀行券受払動向からみた特徴やその背景等について説明する。

10 . 国内11 業界の2018 年度までの年間最少発行額を予測

2012 年度のポイント・マイレージの年間発行額は少なくとも8,684 億円

2014.05.16 野村総研

<http://www.nri.com/ja-JP/jp/news/2014/140516.aspx>

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：嶋本 正、以下「NRI」）は、家電量販店やクレジットカード、携帯電話など、国内11 業界における主要企業が、2012 年度に発行したポイント・マイレージを現金換算した年間最少発行額（以下、「最少発行額」）を推計するとともに、2018 年度までの国内におけるポイント・マイレージの最少発行額の予測を行いました。

11 . 北部九州地域経済の予測分析：地理的な分析

H26.3 国際東アジア研究センタ

<http://www.icsead.or.jp/wp-content/uploads/2014/05/report2013-06.pdf>

12 . 地域ブランディングとそれに関連する地域づくりのあり方に関する調査

H26.3 矢野経済研究所

http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E003950.pdf

本調査は、我が国各地の地域ブランディングとそれに関連する地域づくりを通じた地域活性化への取組みについて、全国的な実態調査・事例調査を行い、実際の取組みやその成果、体制、成功要因、課題等を探るとともに、それらを踏まえた地域ブランディングとそのため地域づくりのあり方について一定の方向性や課題等を得るべく、調査検討を行ったものである

13 . カジノで日本は元気を取り戻せるか

フコク生命

<http://www.fukoku-life.co.jp/economy/index2.html>

1. 2013 年12 月にカジノ推進法案が提出され、今会期中に審議される予定である。
2. 推進法案で想定しているシンガポール型カジノの導入は、ビジネス目的の訪日外国人客も取り込める有効な手段である。
3. カジノの開設は税収増と新規雇用を生み出し、日本が活力を取り戻すきっかけになるだろう。

http://www.fukoku-life.co.jp/economy/pdf/analyst_V0L251.pdf

14 . 「プロ野球16 球団」構想は果たして実現可能か

アベノミクス成長戦略の一環、

2014.5.27 DIAMOND Online

<http://diamond.jp/articles/-/53584>

15 . 外国人が熱愛する日本の鉄道、期待の星は？

2014.5.22 日経ビジネス Online

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20140519/264893/?P=1>

先日、訪日観光に関して2つの対照的な興味深い報道がありました。いずれも「鉄道」に関するものでした。

16 . 沖縄が直面する観光課題に「知恵とIT」で挑む人々

2014.5.16 DIAMOND Online

<http://diamond.jp/articles/-/53058>

リクルートグループで旅行・レジャーや飲食など消費者向けメディアを扱うリクルートライフスタイルでは、沖縄県の観光収入の底上げを支援するために県内の空港、那覇のメインストリートである「国際通り」などで「Airウォレット」「Airレジ」の導入をすすめている。同社が全国の商店街、観光地ですすめる「リクルートポイント」の普及促進活動の一環である。

17 . 賃上げで勝つカイシャ

2014.5 日経ビジネス Online

北九州市の老舗食品会社「橋本食品」の橋本和宏社長

“ルールがない”会社が、成長めざし制度改革

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20140512/264370/?P=1>

「ただ頑張ればダメ」うつ病を患った社長の改革

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20140515/264672/?P=1>

橋本食品は、北九州市の門司港の近くに本社を置く老舗の小売企業だ。今は九州から中国地方にかけ、食品スーパー内のテナントとして、食肉や惣菜、焼鳥などを販売する小売店を多店舗展開している。同社は、100年以上の歴史の中で、歴代社長は時代の変化に合わせて新たな事業を展開し、会社として成長を続けてきた。だが、内部のマネジメントはきちんとルール化しておらず、正社員の労働時間の管理すら厳密にやってこなかった。各店舗ごとの運営も、各店長の裁量にすべてが委ねられており、商品やサービスはもちろん、粗利益率や生産性までも店によってバラバラだった。2008年に社長に就いた4代目の橋本和宏氏は、新たな業態の開発するのではなく、社員達の働く環境の整備に企業経営の舵を切った